

第2回 北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会

「新駅附帯施設等について」【資料2】



平成31年1月30日(水) 15:30～
小樽市 総務部 新幹線・高速道路推進室

1 新駅附帯施設 整備の考え方(費用負担)

■駅の基本的な機能(鉄道運輸機構が整備、JRが管理)

「ホーム・コンコースなど運行関連施設」「みどりの窓口」「待合室・トイレ」

→整備費用は国費(駅設置市として一部負担あり)

■駅に附帯させる機能(基本的に市が整備及び管理)

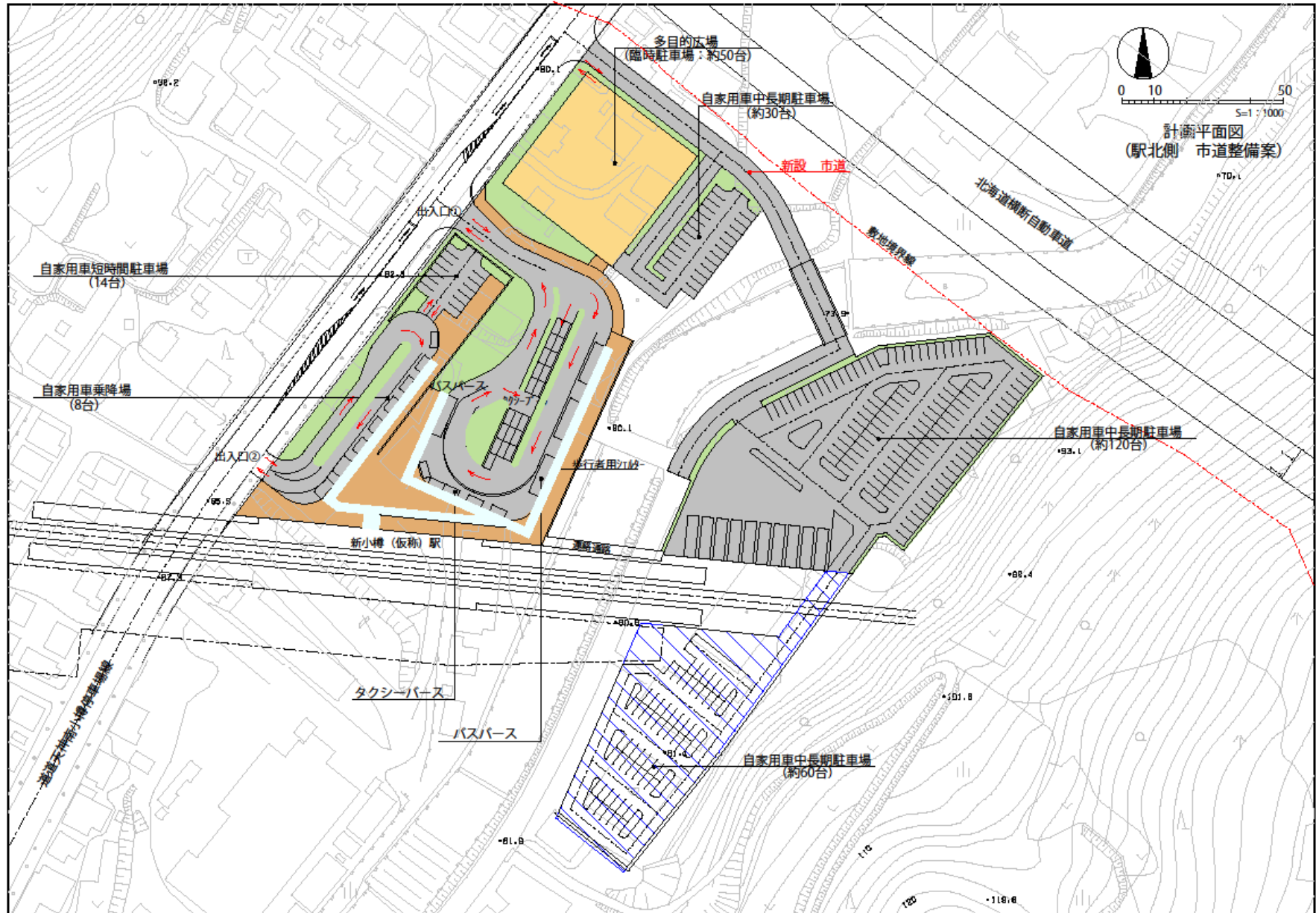
「観光案内所」「物販施設」「飲食施設」など自治体が必要として加える機能

→整備費用は市費

- ①駅隣接整備→駅の構造と関係なく、隣接させるなどして別棟で整備
- ②駅合築整備→駅と同一構造で、区分所有するなどして一体的に整備
- ③高架下整備→鉄道施設以外のスペースを活用して一体的に整備

平成31年度から駅部土木設計が本格化するが、上記②③の場合、駅部設計と大きく関連すること、また、高架下のスペースには限りがあることから、鉄道運輸機構、JR北海道、小樽市で協議・調整を図る必要がある

2 新小樽駅の概略(駅前広場・駐車場 イメージ(協議中))



3 駅舎の事例(附帯施設整備状況一覧)

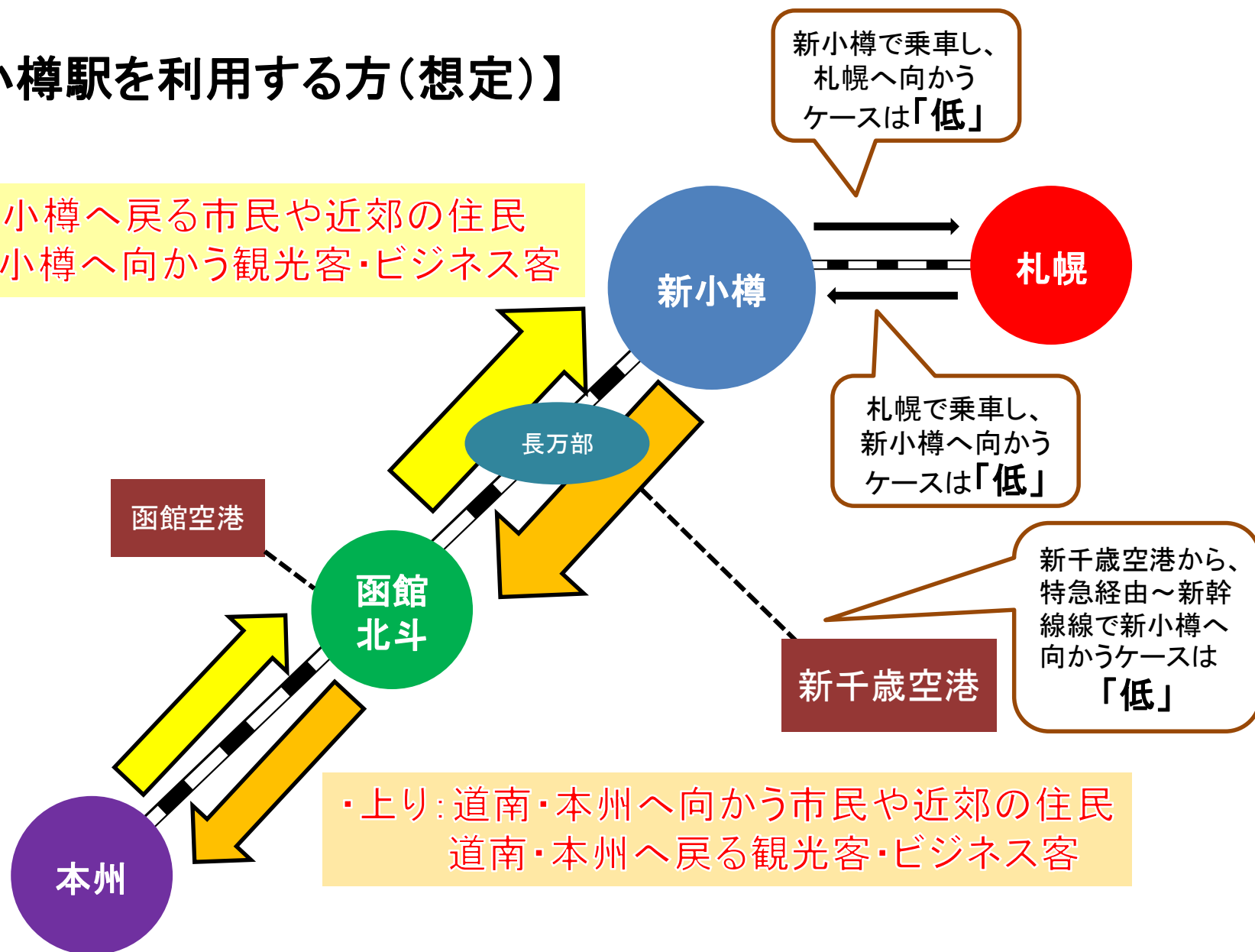
新小樽(仮称)駅と乗降数が近い1,000人/日程度の新幹線駅における附帯施設の機能は下表のとおり(北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画で整理)

駅名	附 帯 機 能						
	売店	コンビニ	キオスク	飲食店	Rカー	観光案内	その他
白石蔵王(東北新幹線)	○	○		○	○	○	
いわて沼宮内(")			○		△	△	
高畠(山形新幹線)					△	○	
赤湯(")		○				○	
さくらんぼ東根(")				○	○	○	学習スペース
大曲(秋田新幹線)		○	○		△	○	
上毛高原(上越新幹線)		○		○	△	○	
浦佐(")		○		○			団体待合室
安中榛名(北陸新幹線)				○	○	△	
飯山駅(") ※追加		○	○	○	○	○	交流センター

4 新小樽駅の利用者想定(ターゲット)

【新小樽駅を利用する方(想定)】

・下り: 小樽へ戻る市民や近郊の住民
小樽へ向かう観光客・ビジネス客



5 新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画での整理

■要協議事項→

駅 施 設		想定される機能	降車客 向け	乗車客 向け
機 能				
①ホーム、コンコース等新 幹線の運行に関わる施設		①レンタカー受付	○	△
		②観光情報発信施設 （案内、相談、その他インフォメーション端末）	○	○
		③魅力発信・多目的空間	○	○
		④地域特産物など物販施設	△	○
		⑤物販（コンビニエンスストアなど）及び飲食施設	△	○
		⑥コインロッカー	△	○

【デザイン方針】 ←駅舎デザイン(外観)については、別途協議

歴史・ 文化	○歴史的蓄積を持つ小樽の象徴として風格、懐かしさが感じられる空間
自然・ 都市	○多様な人々を迎え、期待感を高める玄関口として明るさ、開放感が感じられる空間 ○自然豊かな周辺環境と調和した、落ち着いたある快適な空間
生活・ 活動	○地域住民が愛着を持てる居場所としての温もり、心地よさが感じられる空間 ○ユニバーサルデザインによる、全ての人が利用しやすく、安全で快適な空間

6 附帯施設の検討①

①レンタカー受付 優先度: 3

	降車客向け ○	乗車客向け △
想定される利用場面	・新小樽駅から目的地への移動手段確保のため	・車両の返却
想定される利用者	・観光客 ・ビジネス客	・観光客 ・ビジネス客
クリアすべき課題	・受付スペースを確保できるか？ →他駅では、駅に近接して設置するケースや、観光案内所に併設する例あり ・レンタカー事業者の進出が見込めるか？ ・どれぐらいの利用が見込めるか？（当日受付申し込みは少数？） →9割以上が目的地到着前に事前予約、うち7割はネット等で予約との調査結果もあり	

②観光情報発信施設 優先度:5

(施設の例)

・観光案内所、デジタルサイネージ機器設置、紙媒体情報発信スペース

	降車客向け ○	乗車客向け ○
想定される利用場面	・周辺観光情報の入手 ・移動方法情報の入手 ・イベント情報の入手	・目的地観光情報の入手 ・移動方法情報の入手
想定される利用者	・観光客 ・ビジネス客	・観光客 ・ビジネス客
クリアすべき課題	・スペース確保を確保できるか？ →利便性確保のためには高架下での設置が有効	

③魅力発信・多目的空間 優先度: 3

(施設の例)

・市民ギャラリー、イベントスペース

	降車客向け ○	乗車客向け ○
想定される利用場面	・2次交通便の出発までの時間調整 ・地域情報の入手	・乗車便の出発までの時間調整 ・地域情報の入手
想定される利用者	・観光客 ・ビジネス客 ・市民	・観光客 ・ビジネス客 ・市民
課題	・スペースを確保できるか？ →一定程度の面積を要するため、高架下での設置は困難 ・恒常的な利用が見込めるか？	

④地域特産物など物販施設 優先度: 4

(施設のイメージ)

・JR小樽駅「タルシェ」、運河プラザなど

	降車客向け △	乗車客向け ○
想定される利用場面	・2次交通便の出発までの時間調整	・お土産購入として
想定される利用者	・観光客 ・ビジネス客 ・市民	・観光客 ・ビジネス客 ・市民
課題	・スペースを確保できるか？ →一定程度の面積を要するが、高架下での設置が有効 ・事業者の出店が見込めるか？ ・どれぐらいの利用が見込めるか？	

6 附帯施設の検討⑤

⑤-1 物販(コンビニ・キオスク) 優先度:4

	降車客向け △	乗車客向け ○
想定される利用場面	・飲料などの購入	・飲料、弁当などの購入
想定される利用者	・観光客 ・ビジネス客 ・市民	・観光客 ・ビジネス客 ・市民
課題	・スペース確保を確保できるか？ →利便性確保のためには高架下での設置が有効 ・事業者の出店が見込めるか？	

⑤-2 飲食施設 優先度: 3

(施設の例)

・レストラン、フードコート、カフェ、ファーストフード、立ち食い店

	降車客向け △	乗車客向け ○
想定される利用場面	・2次交通便の出発までの時間調整 ・食事時間帯に到着した方の利用	・乗車時間までの時間調整 ・食事時間帯に出発する方の利用
想定される利用者	・観光客 ・ビジネス客	・市民 ・観光客 ・ビジネス客
課題	・スペースを確保できるか？ →一定程度の面積を要するため、高架下での設置は困難(立ち食いスペース程度なら高架下でも可能) ・事業者の出店が見込めるか？	

⑥ コインロッカー 優先度: 4

	降車客向け △	乗車客向け ○
想定される利用場面	・日帰り客の荷物一時保管 ・駅周辺散策時の荷物一時保管	・目的地に不要な荷物の一時保管
想定される利用者	・観光客 ・ビジネス客	・市民
課題	・誰が管理・運営するのか？ ・用途に合わせたタイプのロッカーを設置すべきか？ →通常サイズのほか、スーツケース・スキー収納可能なサイズ、冷蔵タイプなど	

7 新小樽駅に必要と考える機能

附 帯 施 設		
想定される機能	優先度	想定される運営主体
① レンタカー受付	3	レンタカー事業者
② 観光情報発信施設 (案内、相談、その他インフォメーション端末)	5	市、観光協会
③ 魅力発信・多目的空間	3	市
④ 地域特産物など物販施設	4	事業者
⑤-1 物販(コンビニエンスストアなど)	4	事業者、JR(キオスク)
⑤-2 飲食施設	3	事業者
⑥ コインロッカー	4	要確認

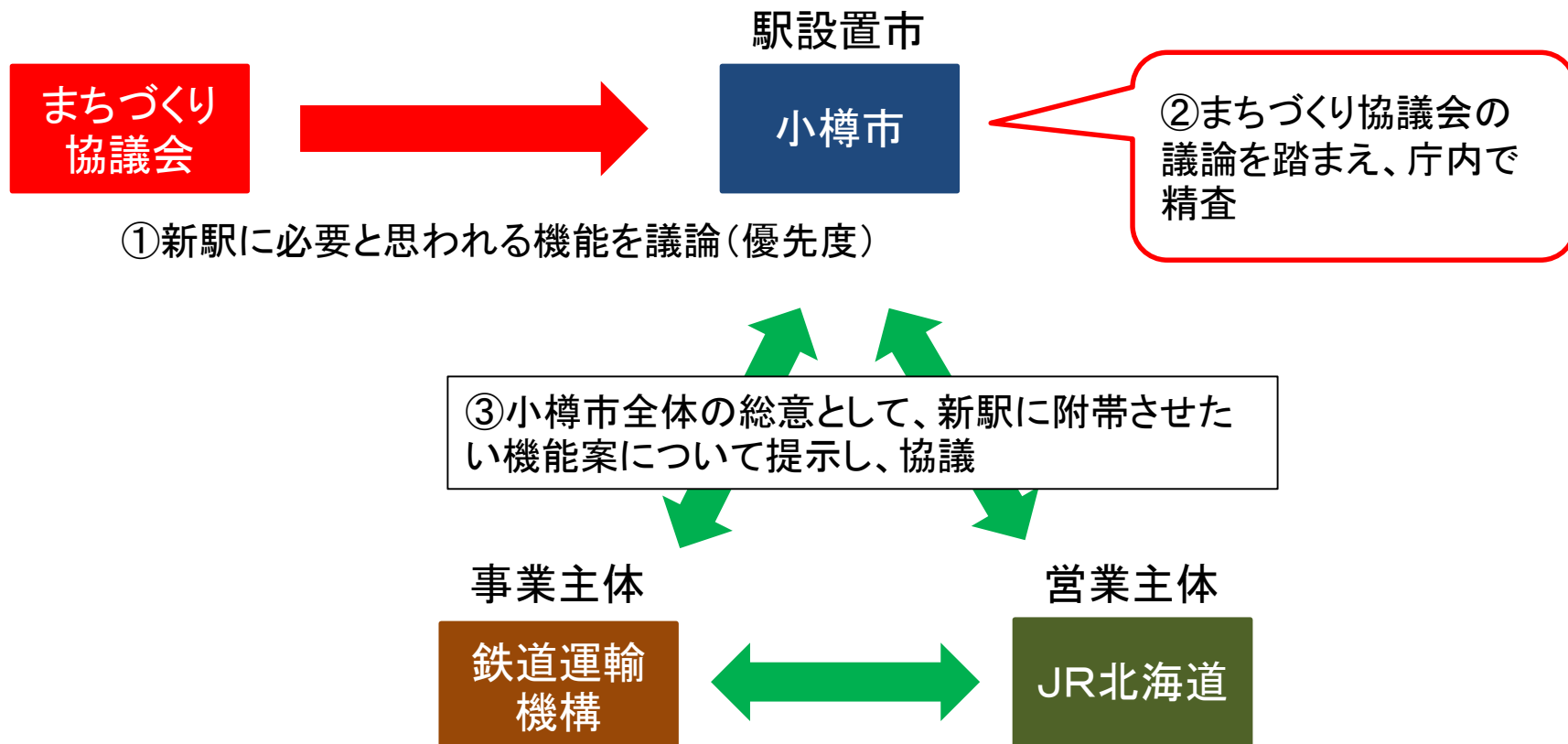
① 上記以外で検討すべき機能はないか？

→利用者想定、設置スペース、整備費用、運営主体を踏まえて

② 限られたスペースを有効活用するために

→不可欠な附帯機能をしぼり、優先度の低い施設は撤退・先送りも

8 今後の調整



★協議に当たって

- ☐ 設置を希望する施設のスペースが、高架下に確保できるかどうか（設置箇所）
- ☐ 附帯施設整備費用はどれぐらいかかるか（費用負担は市）
- ☐ 設計主体・施工主体の確認
- ☐ 所有・管理の確認